几中2年从歷老力。

德市 八万中学校 2年生 第15号 2023年10月18日 編·靖 吉成正士

(第14号からのつづき)

幸せになる人は一人もいない?

■僕は今日、DVD「さとうきび畑の唄」を観て思ったことは、戦争は皆が不幸になり、幸せになる人は一人もいないということです。罪のない人たちから幸せを奪うのは決して許されることではないです。戦争をしても何も解決しません。だから、僕たちが大きくなった時、こんなことを二度と繰り返さないために、過去にあったことを後の世代に語り継いでいくことが大切なんだと改めて思いました。

3組KR

うれしがっている人はいない?

■僕が見たなかで思ったのが、戦争をしてうれしがっている人はいないということです。戦争中には、今のこのような生活が送れなくなります。自由に言いたいことが言えなくなり、家族や友人が殺されたり、幸せが壊されるようなことばかりでした。上官や天皇によって多くの日本人が操られているようでした。住民の命を何とも思わず、使えない人は殺したりして、本当にひどいと思いました。それによって何も抗えずに死んだ人は多いと思います。優しくて、人を殺すことのできない人もいましたが、自分もその場にいたらそうなっていたと思います。敵とはいえ、同じ人間だからです。敵の方も何かしら幸せがあったと思います。敵も自分も同じ思いをして向かっているはずです。だからやっぱり戦争はダメだと思いました。これから先、戦争があるかないかは自分たちにかかっていると思います。だからこれからも学び続けようと思いました。

3組YK



「幸せになる人は一人もいない」 「うれしがっている人はいない」

こう書いてくれた人は本当にたくさんいました。授業でも、「戦争をしたことによって幸せになったってい うか、何か一つでもよくなったことがあったって言っ てる人を私は聞いたことがない」との発言がありました。その通りだと思います。思いますが、一方で、戦争で「得をする人がいる」ことも、事実です。さて、どんな人でしょう。それは今、現代社会でも生き続けています。戦争を肯定したり、推進したりしているように思われると評判にかかわるのでなかなか表には出てきませんが、確かに存在します。そういった面も分ったうえで戦争の正体を見ていかないと、その本質は理解できないのかもしれません。

幸せが奪われないためにも、誰かに操られないためにも、言いたいことが言い続けられるためにも、学び続けることです。「発表する」という行動を通して、自分を思いっきり表現することを通して、学び続けることです。勇気ある行動を楽しめる自分になっていくことです。



行きたくないし、起きてほしくない

■今回の動画を見て私は怖いと感じました。最初はずっと一緒にいた家族が、みんな違うところに行ってバラバラになってしまったところはとても悲しかったです。みんな戦争に行ってしまって、戦争に行った家族が亡くなっていくのを見て、とても心が痛かったです。必死にアメリカ軍と戦っていたところも心に残りました。アメリカ軍の指示に従って出てきたときは、殺されるかと思ったけれど、殺されなくて安心しました。別々で亡くなっていくところはつらかったです。

この動画を見て、戦争とは怖いものだと前から知っていたけれど、もっと怖くなりました。私は戦争なんて<u>行きたくないし、起きてほしくないです。身近なことからなくしていきたいです。</u>戦争が起きて<u>他の国と争って</u>勝ち負けを決めるというのはおかしいことだと思いました。全部の国で戦争がなくなって平和で仲の良いようにしてほしいです。これから修学旅行に行ってたくさんのことを<u>目で見て学びたい</u>と思いました。これからも平和学習について真剣に取り組みたいと思いました。

"思い"が"言葉"を超えるとき

■観終わったあと、何度も何度も自分の感情を<u>言葉にしようと、まとめようと</u>思いました。でも思い返すたびに<u>涙があふれて、声を出すことすらできませんでした。「哀しい」「無念だろう」</u>という涙だけでなく、「やるせなさ」、引き裂かれた家族の「むなしさ」で、知らないうちに涙が流れていました。家族の生死も分からないなか、「もう一度会いたい」という思いだけで生きて生きて、会えなかった人がいたときの絶望は、計り知れないものだと思います。ドラマを「観ているだけ」の私でも感じるぐらいの、心の叫びがありました。

このDVDを観て思ったのは、「本当に戦争を始めた人」は、絶対に戦争に参加しないということです。実際に戦っているのは、命令された兵隊、民間人たちです。戦争をしたい、したくないに関わらず、アメリカ兵も日本兵も、家族を、自国を守るために戦っています。そう信じたいです。でも、最初に真珠湾への攻撃を命じた人は、何を守っていたのでしょうか。一時の強さや欲におぼれ、命じたのではないでしょうか。私は何かを"求める"のではなく、"与える"ことのできる人になりたいです。

5組KN



どうして涙を見せようとしないのですか?泣いたっていいじゃないですか。

溢れる思いでマイクを持って立ち上がったものの, 涙涙で何も言えずに終わって,そのまま座り込んでし まった子だっていました。泣きじゃくってちゃんとし た文にならず,いくつかの単語だけで座ってしまった 子もいました。それでも,言葉にできなくても,ちゃ んと思いは伝わってきました。それでいいのだと思い ます。むしろその方がいいのだと思います。本当に伝 えたいことは言葉ではなく,"思い"なのです。

人権学習を進めていくと、必ず涙する中学生が出てきました。理由は様々ですが、むしろそうなるのが自然なのだと思います。言葉は大切です。言葉にしないと伝わることも伝わりませんから。でも、言葉よりも大切なものもあるのだと思います。それが、"思い"ではないでしょうか。本当に大切で、本当に伝えなければならないのは、"思い"なのだと思います。

今起こっている戦争でいえば,命令する多くの人は,

テレビに出ています。でも、本当に傷ついている人は、現場にいます。いじめや差別は、相手は目の前にいても、そう仕向けている本当の黒幕は見えないところにいます。もしかすると戦争も、テレビに出ている以外の黒幕も、どこか見えないところにいるのかもしれません。そこを考えてみてはどうでしょう。

意見交換のとき,次のような発言がありました。

「争いごとは身近なところから解決することが大切だと思いました。でもその身近なところを解決するのが難しい人がいると思います。でも今日を思い出して行動してほしいです。」「平山家の人たちはすごい強い人たちだなって思いました。紀子さんとか戦争はダメって。戦争万歳みたいな感じのときに言ってたじゃないですか。あんな雰囲気の中よく言えるなって思うんですよ。みんな、そんなこと誰一人言えないのに。美知子さんにしたって防空壕の中から出てきたじゃないですか。もしかしたら捕虜にされて殺されるかもしれない、辱めを受けるかもしれないのに、生きるために出て行けるって凄いことだと思うんですよ。春子ちゃんも「Do you kill me?」って言ってたじゃないですか。生きるために。主人公の人も怪我した米軍の人を撃つ時に、「自分は殺せない。同じ人間だから」って言うのを聞いて、私もおかしいことをおかしいといえる人間でありたいなと思いました。」

「今, この場で言っている, <u>戦争は絶対ダメ</u>っていう意見とか, <u>戦争で死ぬことは無駄死にだ</u>っていうことを, <u>今ここでは言えるんですけど</u>…。」

本当に大事な時に踏ん張れる,主体的な勇気を,行動力を,高めていってほしいのです。求めるばかりではなく,人に与えられるみんなに変わっていってほしいのです。言い換えれば,受け身の自分から,主体的な自分になっていくということです。面倒くさいとか恥ずかしいではなく,主体的に自分の,自分たちの未来を切り拓いていける人間に変わっていってほしいのです。それが,いじめや差別をなくしていく本当に大事なことだから。

野球でもサッカーでも、「ボールが自分のところに来たらどうしよう」と弱気に思っているときに限って、妙に来たりします。そんなふうに弱気になっておどおどするのではなく、びくびくするのでもなく、「いつでも来い!」と思い切れる自分になってほしいのです。合奏していても、「ミスしたらどうしよう」ではなく、

「ミスはするもの」と前置きしたうえで、ミスを挽回 しようとするメンタル、「仲間のミスは自分がカバーす る!だから自分がミスをしたときはお願い!」と思え てしまえるようなチームになることだと思うのです。

25日は合唱発表会です。リハーサルは最高に素晴らしいものでした。音楽の先生も、絶賛していました。日ごろから、自分を表現することに当たり前に取り組んできた成果かもしれません。そこに、ミスしても、多少音程が違っても笑われない安心感がチームにあれば、思いっきり自分を表現することができます。そんな令官にしていくことです。そんな教室にしていくことです。そんな授業参観をめざしていきましょう。これまでにない気合を込めて、11月10日に向かいたいと思います。みなさん、よろしくお願いします。授業は自分たちでつくるものです! (おしまい)